市立札幌藻岩高校　MSP活動

Moiwa inami-ku Smile ustanable Project latform

# SIGNAL IZE

～目次～

01｜　学校では教えてくれない「LGBTQ+」の話
02｜　校内アンケート
03｜【対談】私たちの今

# 学校では教えてくれない「LGBTQ＋」の話

LGBT「Q＋」。この言葉を耳にしたことはありますか？今現在、教科書にもLGBTという言葉が掲載されるようになり、ニュースなどでもこの言葉を耳にすることが増えました。では「Q＋」とは一体何なのでしょうか。言葉の意味や、なぜLGBTに「Q＋」をつけた言葉が存在しているのかを知っていますか？今回はその、教科書には載っていない「Q＋」というワードを紐解くことで、多様な性のあり方という考えを紹介します。

（※この記事はでは主に「LGBTQ＋とは何か」という説明をしていきます。そのため、LGBTQ＋非当事者のみに向けた内容が含まれるかもしれません。記事の特性上、予めご了承ください。しかし私たちは「全ての人の存在」を想定して活動しています。私たちはいつも、あなたの存在を無視しません。どうか安心して記事を読んでくだされば嬉しい限りです。）

まずはじめに、LGBTはレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を取った言葉です。これら4つの言葉の意味は後ほど解説しますが、一度これを念頭に置き、「Q＋」について切り込んでいこうと思います。「Q＋」を理解するために知る必要がある言葉が「セクシュアリティ」です。セクシュアリティとは、「性のあり方」を意味する言葉です。これだけでは少し漠然としているため、「4つの軸」という側面からこの言葉を見ていきましょう。セクシュアリティは様々な指標に基づいて決定することができますが、そのうちの一部が今から紹介する4つの軸です。

1つ目は、「生物学的性」です。これは身体的な特徴をもとに割り当てられる性別のことです。私たちは生まれたときに身体の様子に基づき判断され性別を割り当てられますが、それが生物学的性であると言えます。

2つ目は「性自認」です。これは自分で自分自身の性別をどのように認識しているのかということです。男性、女性、という具体的な自認が強い場合もあれば弱い場合もありますし、「ない」という場合、どちらでもない自認がある場合、様々なケースが存在します。性自認は生物学的性と結びついている、というわけではありません。両要素がイコールのときもあればそうでないときもあります。また、その人の性別を決定するのは性自認です。あくまで生物学的性はその人が外から割り当てられたものなので、本人の意志とは関係ありません。全ての人には、その人が自認する性別を生き、その性別で周囲や社会から扱われる権利があります。

3つ目は「性表現」です。これは言葉遣いや服装などによる自身の性の表現のことです。社会の規範、あるいは自分から見て、自分の振る舞いは男性的なのか、女性的なのか、その中間なのか、それ以外なのか、と、性自認と同じく性表現にも様々なケースが存在します。どのように自身の性を内側で認識するのかということだけでなく、どのように外側に発信するのかということも、セクシュアリティの大切な要素の1つです。

そして4つ目は「性的指向」です。これはどの性別の相手に性的または恋愛的に惹かれるかということです。

ここで押さえたいのは性的・恋愛感情が向かう先は必ずしも1つの性別に限られるわけではない、ということです。男性に惹かれる、女性に惹かれる、その両方に惹かれる、相手の性別は意識する要素に含まれない、これまた様々なケースがあります。さらに、性自認にも「ない」という場合があったように、性的指向においても「ない」というのはあり方のひとつです。誰にも性的・恋愛感情が向かわない、またどちらか片方の感情のみが向かう、という場合などが挙げられます。

今紹介した4つの軸の組み合わせが、セクシュアリティなのです。これを知ることにより、あらゆる事実に気がつくことができるはずです。

ひとつは、「セクシュアリティは誰にでもあるもの」ということです。みなさんも今、自分に4つの軸を当てはめて考えてみましょう。各軸において「ない」「決めない」というあり方が存在することも含め、すべての場合がセクシュアリティです。セクシュアリティは全て、4つの軸の組み合わせによって様々な形が生まれている、というだけの話なのです。だから、どの組み合わせが普通、望ましい、といったことはないのです。セクシュアリティにおいて少数派、つまりマイノリティの人のことをセクシュアルマイノリティと言います。LGBTQ＋とほとんど同じ意味の言葉です。社会における多数派は、生物学的性と性自認が一致しており、性的指向が異性に向く人ですから、それ以外の人がセクシュアルマイノリティだと言えます。セクシュアリティは誰にでもあるもので、「普通」か「普通じゃない」かではなく、「多数派」か「少数派」かの話なのです。

しかし残念なことに、4つの軸の組み合わせによって生まれた様々な形のうち、多数派である形が尊重され、少数派である特定の形が差別、不利益を受けているという状況が、今の社会には蔓延しています。

もうひとつは、「LGBT」が全てではないということです。レズビアンは性自認が女性・性的指向が女性に向くという組み合わせの人、ゲイは性自認が男性・性的指向が男性に向くという組み合わせの人、バイセクシュアルは性的指向が男女両方に向く人、トランスジェンダーは生物学的性が男性・性自認が女性という組み合わせ、あるいはその逆の組み合わせの人（生物学的性に違和感がある人とも言えますが、そのような人のなかにはトランスジェンダーでない人もいます。例えば性自認が男女どちらでもない人などです。）の名称です。しかしこれらでは軸の組み合わせを全て網羅できていない、ということがわかるでしょう。

そこで出現する言葉が「Q＋」なのです。Qとは、クィアやクエスチョニングの頭文字を取ったものです。クィアは多数派ではない性のあり方を包括する言葉（今回は詳しい説明は割愛しますが、セクシュアルマイノリティとほぼ同義と理解してください。）で、クエスチョニングは自身のセクシュアリティが決まっていない人、決めないというあり方の人のことです。＋はなにかの言葉の略というわけではありませんが、見て直感的にわかるように「LGBTだけではないセクシュアリティがある」ということを表します。名称をつけられるセクシュアリティはたくさんありますが、全てを並べると莫大な量になります。組み合わせの多様さはもちろん、各軸におけるあり方も多様だからです。

セクシュアリティはどこかに区切りが設置されているわけではありません。ひとつひとつの形が独立しているのではなく、グラデーションとなっています。だから、「Q＋」という言葉を用いるのです。ＬＧＢＴという言葉自体にもセクシュアルマイノリティという意味はありますが、Ｑ＋という言葉をつけることで、より様々な人の存在を示した表現をすることができます。また、Ｑ＋という言葉が存在する理由を理解することが、多様な性への理解へと直結します。少数派である性のあり方のすべてを包み込むことができる表現、それがＬＧＢＴＱ＋なのです。

さて、セクシュアリティという概念を理解した皆さんはこれからきっと、教科書に載っているだけの語句として「ＬＧＢＴ」を捉えるのではなく、多様な人々の存在として、「ＬＧＢＴＱ＋」という言葉を捉えることができるでしょう。

加えて、ＬＧＢＴＱ＋に該当する人は１０人に１人程度の割合でいると言われています。これは左利きの人と同じ割合です。クラスの人数などに置き換えてみると分かりやすいかもしれません。「ＬＧＢＴＱ＋」というのは他でもない、今日、この世界のあちこちで生きている人々の存在です。１０人に１人。決して少なくない人数です。きっと誰しも一度はＬＧＢＴＱ＋の人々と関わったことがあるはずです。今日もあなたの隣でＬＧＢＴＱ＋の人々は生きています。もし、「いやそんなことはない」、「ＬＧＢＴＱ＋の人なんて見たことない」と感じる方がいれば、それは相手のセクシュアリティが分からないから気がついていないというだけのことです。

全てのセクシュアリティは同じ広いグラデーションの中に存在しています。どこかで切り離されているわけではありません。ですが、ある部分に該当する人のみがときに差別を受けたり、人生において不利益を被ったり、不必要につらい思いをしています。これは誰にとっても関係のある話で、決して他人事ではありません。同じグラデーションの上にいるのですから。

同時に、誰にでも関係のある話だけれど、ＬＧＢＴＱ＋にはＬＧＢＴＱ＋特有の問題が付随している、ということも是非考えてほしいポイントです。ＬＧＢＴＱ＋特有の問題を無視し、それがあたかも「誰にでもよくある問題」かのように語るのは問題の矮小化に繋がります。他人事ではないという意識。特定の誰かや特定の属性を取り巻く問題の枠を無闇に広げることなく、特有性を考えて向き合う、という意識。この両立をして問題に向き合っていくことが必要なのです。

最後に、「多様性を理解しよう」と、近頃よく耳にすると思いますが、それは結局どのようなことなのでしょうか？何をすればよいのでしょうか？多様性を理解しろと言われ、「当事者の感覚を理解しなければならないのか、それはわからない」と感じていた方もいるかもしれません。しかしそうではないのです。どのようなあり方も全て「あらゆる軸の組み合わせ方のひとつ」にすぎないということを理解することが必要だったのです。この項目を通して皆さんがその理解を達成できていれば何よりです。が、だからといってそれで当事者のことがすべて分かったというわけではありません。

ＬＧＢＴＱ＋というのは語句ではなく、この世界に生きている人々のことです。言われて嫌なことや考え方など、全て一人一人違います。そう思うと「やっぱりどうしたらいいのかわからない…」「ＬＧＢＴＱ＋の人々って難しい…」と感じるかもしれませんが、考えてみてください。一人一人違う、というのは全ての人に言えることです。皆さんは普段から自分とは違う様々な人と会話し、人間関係を構築し、その中で相手を傷つけないように動いたり、ときに助けたり、ぶつかったり、と、生きているはずです。それを今回得た知識のもと、いつも通り全ての人に向けて実行してみてください。

さて、あなたは今からどう行動していきますか？

## Signalers

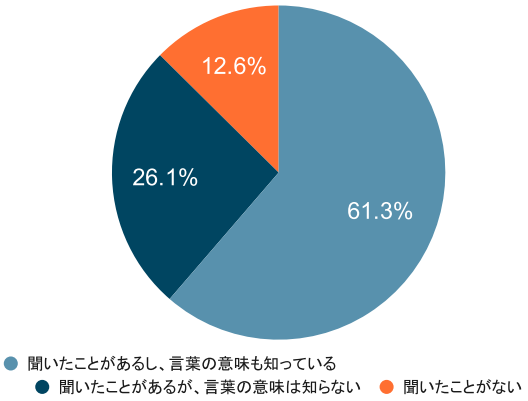
藻岩高校のMSP(探求活動)で結成された2人組の活動グループ。名前は「信号·合図」を意味する「Signal」に「～する人」という意味の「er」、複数形の「s」をつけたもので、「誰かの声、シグナルを受け取り、発信する」「社会を変える合図をここから鳴らす」という意味が込められている。

本誌のタイトルである「Signalize」は何かを目立たせる、注目させる、伝える、という意味の言葉。LGBTQ+に関する話題や問題をこの冊子を通して「Signalize」させ、多くの人に考えてもらいたい、社会を変えたい、また、LGBTQ+当事者の方々に信号を届けることで「ひとりではない」と伝えたい、という思いから、本誌は制作された。

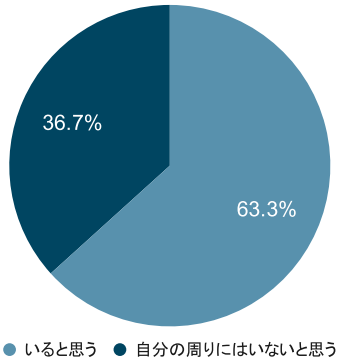
現役高校生に聞いてみた！

# 校内アンケート

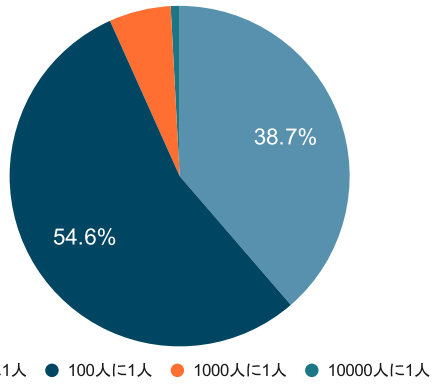
## Q1.LGBT(Q+)についてどの程度知っていますか？



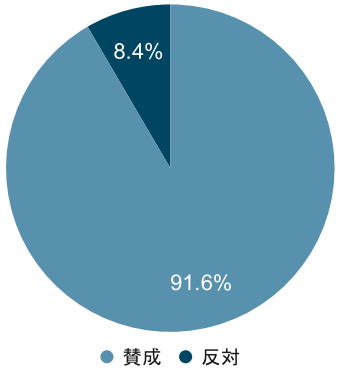

## Q2.LGBT(Q+)に該当する人はあなたの身の回りにいると思いますか?



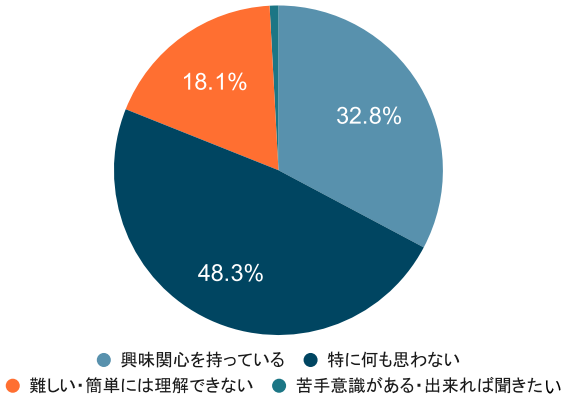

## Q3.LGBT(Q+)に該当する人は何人に1人の割合でいると思いますか?



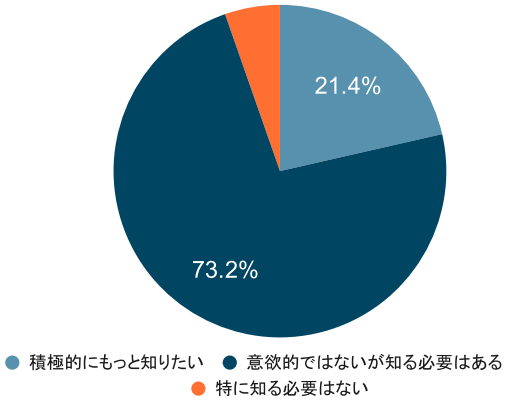

## Q4.同性婚に賛成しますか？反対しますか？




## Q5.授業などでジェンダー・セクシュアリティの話をされたとき、どのような気持ちで話を聞いていますか？




## Q6.ジェンダー・セクシュアリティ(についての知識及び諸問題など)についてもっと詳しく知りたいと思いますか？



# Q.普段の生活の中で、LGBT(Q+)に該当する方に、どのような意識を持ち、どのような行動を取っていますか？

（※アンケート集計時、掲載しても良いとお答えしてくれたものを載せています。）

彼女や彼氏じゃなくて恋人と言ったり、女の子だからや男の子だからはなるべく言わないようにする。

女性**なのに**男**なのに**と言わないようにしている

なるべく**男らしく、女らしくのような言葉を使わない**ようにしている

彼女とか、彼氏ではなく恋人など**どちらでも取れるような呼び方をしてる**

当たり前のように男子は～、女子は～、といった言葉を使わないようにしている

ちゃん、くんじゃなくてさん呼び

彼氏彼女のような**性別を特定する表現をなるべく控え、広く捉えられるような表現を使用**する

他人の恋愛や性別に口を出さない

否定的な言葉を口にしない、してる人がいた場合に柔らかく注意したり、否定的な意見が続いてしまう場合に話題を変える

LGBTQだと思われる人にはもちろん、それに属さない方に接するときも差別的な発言や偏見が混じった発言はしないようにしている（普通～だよね等）

その話題に触れない

その人（LGBT(Q+)当事者）がいる前では性別に関する話をしない

価値観を押し付けない

性的指向が何であれ差別はせず受け入れるようにしている

変に意識すると嫌がる人もいるので**あえて意識しない**ように心がけている

性別に関しては本当にその人の自由だと思うので、**その人はその人なりの生き方が**あるのだと思ってみんなと同じように接するようにしている

基本的には他の人と態度を変えない。**友達は友達だし**、そこまで深掘りする必要もないかなぁと思うので

自分と考え方が違ったり、外見と中身の性が違っていても同じ人としてみてるし、それを馬鹿にするような言動はしてません。**人それぞれ考え方が違うのは当たり前**だと捉えています。

性別関係なく、その人の考えを尊重したいと思ってるし、誰が何をしようが何とも思わないから、あまり意識することはないかなと思う

LGBTQ＋当事者と考える

# 私たちの今

前ページのアンケート結果を皆さんはどう捉えましたか？今回は4名のLGBTQ＋当事者の方々にそれを見ていただいたうえでお話いただきました。みなさんも一緒に「今」を見つめてみませんか？

## ～introduction～
## 対談に参加の４名

**Aさん**
●パンセクシャル
○20代

**Bさん**
●Xジェンダー
○20代

**Cさん**
●レズビアン
○10代（高校生）

**Dさん**
●Xジェンダー
○10代（高校生）

●セクシュアリティ
○年代

### ～アンケート結果を受けて～

**Bさん** 第一印象は、みんな多分知らないんだろうなと思った。知識がないから、LGBTQ＋が困ってることは何だと思いますかって言われたらトイレとか、恋愛の話しか出てこないっていうか。LGBTQ＋の中でもトランスジェンダーって分かりやすい話じゃん。トイレ困るよねとかスカート困るよねとか。「LGBT＝トイレ」みたいな偏った認識が強いのかなっていうのはあるから、正しい知識を知った上でもう一回アンケートを取ってみてほしいなって思う。

**Aさん** 授業とかでは(LGBTQ＋の話は)あるの？

**Cさん** 必ず全員やる授業ってなると社会、家庭科、あと保健には「LGBT」って言葉は載ってるんですけど、用語の説明だけです。

**Bさん** 頭文字を説明するくらい。

**Cさん** そうですそうです。LGBTという人たちがいます、終わり！みたいな。

**Bさん** でしょ！だからそこ止まりなんだよね。

**Cさん** あくまで言葉としてしか伝わっていないというか…。テストに必要な語句の一つ、って感じ。これ(アンケート)を見ても、やっぱりリアルが伝わっていないなと感じます。

**Bさん** 全然身近に感じてないんだよね。だから100人に1人みたいな話になっちゃう。冊子を通して身近に感じてもらえたらいいよね。

**Cさん** どうやって身近に感じてもらうか…。本当はここにいるんですけどね(笑)。あなたの隣に、身近にいるんですけどね、って思います。

**Bさん** ね！気づいてないのかな。

**Cさん** LGBTQ＋の人が存在しているのはわかるけど、実際には身近な存在として感じられてないのかなあ。あと興味があるかないかって質問も、確かに私も別に全ての社会問題に興味があるわけじゃないし、興味の無い問題については深掘りしようとも思わないから、この結果はわかるんですけど…。にしてもLGBTQ＋のことは凄く身近な話だと思うのは私が当事者だからかなのかなあ。

### ～言葉以上の理解～

**Bさん** 気になったのが記述のところで、「あんまり話さない」そんな話題は振らない、っていう回答。

**Cさん** あ～、話をしないとか話題に触れないとかありますね。

**Bさん** なんかこういう考え方が…う～ん…。

**Cさん** なんかちょっと違いますよね、触れないって。でも、じゃあ私は触れないんじゃなくてどうしてほしいんだろう…。

**Dさん** アンケートの人は、適切な触れ方を知らない状態では触れないってことじゃない…？

**Bさん** あ～、触れられないんだよね、きっと。

**Cさん** 触れ方を知らない…。

**Bさん** セクシュアリティは誰もにあるっていう概念、っていうのはわかる？

**Cさん** **Dさん** わかります。

**Bさん** でもみんなそれも知らないと思う。「LGBT」だけがセクシュアリティを持っている人たち、みたいな認識。そういうのがすごく大きいと思っていて。異性愛者、シスジェンダーの人たち、あなたたちもそう(セクシュアリティを持っている)でしょってことが知れたら、凄い身近に感じられると思うんだよね。LGBTって言葉だけじゃなくてセクシュアリティっていう概念まで知れたら、この回答もガラッと変わると思うんだよね。言葉としてしか知らないって印象がやっぱり強い。言葉が独り歩きしてる、って思ってる。

**Aさん** LGBTって言葉が？

**Bさん** うん、イメージしやすいスカートやトイレの問題しか出てこないのもそう。言葉が独り歩きしてるから。

**Dさん** 小学校の道徳の時間とかでそういうのをやればいいのになあ。自分と向き合う、自分のセクシュアリティについて向き合う時間みたいな。

**Cさん** 結局今LGBTQ＋のことって、色々考えたり調べたり知ったりする一連の流れが個人任せになっているように思います…。社会としてそこが保証されていなくて、一部の人だけが考えることみたいになっている。

### ～話題に触れない、って？

**Cさん** さっき話題に上がった、話題に触れないっていうのが気になってて。それは違うよなとは思うんですけど、じゃあ私はどうしてほしいんだろうって。

**Aさん** 例えばそれって自認と指向で違うのかな？

**Bさん** 性自認のことで言われるのか、性的指向のことで言われるのかってこと？

**Aさん** そうそう。トランスジェンダーの人とかは気づかれないのがいいみたいな風潮もちょっとあるからさ。そう考えると、触れないほうがいいのかなって。

**Bさん** 気づかれないほうが、嬉しい。

**Cさん** 私はレズビアンなんですけど、私だったら、常に意識して気遣ってもらうのは嫌で、でも会話をするときに全員異性愛者である前提で話してほしくないって感じかな。普段はその前提で話される場面が多い気がします。

**Aさん** 自認の側面はどうなの？

**Dさん** 触れられるってどういう…？

**Aさん** 学校だと制服だから分からないけど、体型が出ないように大きめの服を着ているのを、敢えて触れてくるとか。例えばね。

**Bさん** あ～、男の子になりたいの？とか。

**Dさん** あ～母によく言われますそれ、気持ち沈んじゃいます。性別に関してはあんまり触れられたくない

ですね。ほっといてほしい…かも。

**Bさん** それはね～、触れられたくない気がする。

**Cさん** やっぱり側面によって違いますね…となると触れないって究極の安全策みたいなところがある気もするけど、そこで止まるのもやっぱり違うな～…。

**Aさん** 触れなきゃなんでもOKってわけじゃないよね。逆に、私は触れられなくても自分からオープンにするタイプ。

**Bさん** あ～そういうタイプの人、すごいよね、積極的で。

**Aさん** でもそれは出来る人がやったらいいと思ってる。確かにひどいことを言われたら悲しくなるし、憤りも感じるけど、それよりも、当事者も一緒に生きてるよってことを分かってほしいから、セクシュアリティをオープンにできる。でも別にみんながみんなそうある必要もないし、その覚悟ができてる人が、ちょっとずつやったらいいと思ってる。

**Cさん** Dさんは誰かに言ってる？

**Dさん** 中学校の頃の友達1人くらいかな。

**Cさん** いや～そんなもんだよ…。

**Aさん** オープンにする人、外部には言わない人、一部に伝える人…。

## ～全員で考える意義～

**Cさん** だからこそ…みんなで考えることの重要性を感じました。正解がただ1つ存在するんじゃなくて、その場所にどんな人がいる、その人がどう思う、っていうのに合わせて考えてかなきゃいけないし。1度決まったからずっとそれが正解というわけでもないし。都度考えるって面倒かもしれないけどやっぱり必要だから、もっとみんなに関心を持ってほしい。誰かが考えただけじゃ進まない話だから、みんなに興味持ってほしいんだなっていうのを、話してきて感じました。

**Bさん** 本当、それだと思う。だし、このアンケートの中にも、もしかしたら興味あるけど書きづらい！って人も実際いると思う。例えば当事者だったら書くのに抵抗感があるかもしれない。だからもっと知ってもらう機会を作ってあげるのが大事かなって思うんだよね。こっちから発信したり、お話出来るフリースペースみたいなの作ったり。。そういう時間を増やせば、興味ある人がどんどん増えてくと思うんだけどな～。

**Aさん** え～、私はあんまりいないと思う。興味は別にないって人が多そう。

**Bさん** でも、実際みんなで考えてみたら絶対面白いと思う。

**Aさん** それはね…。でもわざわざ考えようとしないと思うな、興味ない人は。

**Cさん** 必要性を感じてほしいかも。誰かが考えて決めたことに従えばいいんじゃなくて、その場でみんなで考えることの必要性。 興味が無かったとしても、参加して、ある程度は考えないと意味がない。

**Bさん** それにこの話題から派生して色々な問題が出てくると思う。トイレの話、男女別、ってなったときに、じゃあ病気で車椅子の人はトイレ入れなくない？そういう人たちどうするの？みたいな。新たな視点が出てくるの。LGBTQ＋を切り口に多様なことを知れるっていうのは本当にチャンスだと思う。LGBTQ＋を1つとっかかりとして考えていけたら、色んな、他の人も過ごしやすくなるんだよ。このトイレの話ってLGBTQ＋だけの問題じゃないんだって知って、確かにな、自分たちが見てる世界ってこんな狭かったんだって、視野を広げるって意味でも、LGBTQ＋の話に触れてくれると、嬉しいな。

## ～「普通」から抜け出して～

**Bさん** それぞれ1人1人に色んな側面があるってことを知らなきゃいけなくて、セクシュアリティはマイノリティだけど私は日本生まれ日本育ち、マジョリティです、っていうこと。

**Aさん** それ！マイノリティの側面とマジョリティの側面を、みんなどこかで持ってる。

**Bさん** 国籍の面で言うと、日本では私はマジョリティだけど、外国籍の人はマイノリティ。逆に私が海外に行けば、今度は私がマイノリティになる。いずれの場合もマイノリティはその土地の文化や制度に馴染めなかったり、周りと違うことを理由に差別されたりする可能性があるよね。

**Aさん** 私も、法や制度、多くの人が当てはまってたり適応できたりするもの、今ある仕組みにフィットできない人がマイノリティだって思ってる。

**Bさん** そういう考え方になれば、セクシュアリティも他人事じゃないなって思えるようになるんだよね。

**Aさん** そうそう。

**Cさん** 今の感じだと、マジョリティマイノリティって感覚で認識してないなって感じることがあって…。以前ゲイのことを「男性なのに男性が好きな人」って言っている人を見かけたのをよく覚えているんです。それって「男性は女性が好き、女性は男性が好き」なのが「普通」として存在してるから、「～なのに」っていう考えになったのかなって。「普通」と「そうじゃない人」で分けられていて、「そうじゃない人を認めましょう」ってなってるのかなって。だけどセクシュアリティは誰にでもあるもので、特定のセクシュアリティの人数が多数あるいは少数ってだけで、多数な人たちだけに今ある仕組みが当てはまって、逆に少数ってだけで問題や大変なことがあって、ってことを…伝えたい。

**Aさん** 伝えよ～！

**Bさん** ほんとにそう。伝えよ。

## 用語解説

**パンセクシャル**

誰かに惹かれるうえで相手の性別は意識する要素に入らない性的指向を持つ人を指す。あらゆる性別の区分関係なく誰かに惹かれるセクシュアリティ。

**Xジェンダー**

男性･女性ではない性自認を持つ人を指す。その中でも更に中性(男女の中間に位置する)、両性(男女両方を兼ね備えている)、無性(男女どちらにも当てはまらない)、不定性(性自認が流動的である)に分類することが可能。

**レズビアン**

性自認が女性であり、かつ、性的指向が女性に向く人を指す。

**トランスジェンダー**

性自認と生物学的性が一致していない人を指すが、主に性自認が男性または女性のどちらかであり、それが生物学的性と一致していない人を表す。男性･女性ではない性自認を持つ人も「性自認と生物学的性が一致していない」と言えるが、これは前述したようにXジェンダーと表すことができる。

**シスジェンダー**

性自認と生物学的性が一致している人のことを指す。

**ゲイ**

性自認が男性であり、かつ、性的指向が男性に向く人を指す。

# 編集後記

この度は本誌を手にとっていただきありがとうございます。誌面でも紹介がありましたが、私たちは藻岩高校の探究活動によって生まれた二人組です。ＬＧＢＴＱ＋やジェンダーなどをテーマに活動しています。「ＬＧＢＴＱ＋当事者の居場所を作りたい」「社会全体を変えたい」という２つの思いを持った私たちは、冊子を制作するという結論に至りました。私たちの思いを言葉にして社会に届けることが、変化をもたらすのではないだろうか。また、その思いを受け取ったＬＧＢＴＱ＋当事者かもしれないと感じている)の方が私たちの活動、存在を知ることで「自分はひとりではない」と思えるのではないだろうか。そう考えたからです。ＬＧＢＴＱ＋は言葉ではなく、今を生きる人々のことであるということ。みなさん、あなたが、今日も生きているということを、私たちは知っています。私たちは「全ての人の存在が想定される社会」を作ることを目標に活動してきました。この冊子をもって活動はひと区切りとなりますが、この思いが止むことはありません。本誌が目標に対する一歩となるかどうかは、みなさんにかかっています。社会を生きる、作る、一人一人です。私たちの「ＳＩＧＮＡＬ」が、人から人へ転送され、社会全体に広まりますように。そんな願いを胸に、結びとさせていただきます。改めて、本誌をお読みくださりありがとうございました。

二人という小さなチームだったため、一人の作業量が多くなり、少々時間がかかってしまったけれど、こうして無事に冊子を完成させることができて、ひとまずほっとしています。冊子を作り上げられたのは皆様のご協力、ご支援のおかげでもあります。改めまして、アンケートにご協力いただいた藻岩高校二年生の皆様、ＭＳＰでお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

私は、このＭＳＰの活動をするにあたり、ジェンダーやＬＧＢＴＱ＋に関するニュースを以前より多くみるようになり、自分なりに深く考えてみることが増えました。私自身、関心があった内容ではあったものの、いざ考えてみると、なかなか自分なりの答えを出せなかったり、色んな意見を見ていくうちに、自分がどうしたいのかよく分からなくなる時も多くありました。

この冊子を読んでくださった方の中にも、完全に理解できなかった、分かんなかった、自分の意見は持ってない…という人がいると思います。それでもいいんです！

まず、物事を知ってみる、考えてみる・向き合ってみることが大切だと思います。私たちの活動はその小さな一歩目のきっかけにすぎないかもしれないけど、その一歩が、二歩目三歩目に繋がることを信じています。

下記インスタグラムのダイレクトメッセージ、メールアドレスから私たちと連絡を取ることが可能です。イベント等の案内があればこちらまでご連絡くださると幸いです。
(インスタグラムは左記のQRコードからもアクセスができます)

@MSP__._SIGNALERS

Instagram:　https://www.instagram.com/msp__._signalers
E-mail:　m.signalers.50@gmail.com

発行月：令和６年４月
発　行：北海道　市立札幌藻岩高等学校[第50期MSP交流10班　signalers]